「バス乗り込み調査」分析結果

調査概要

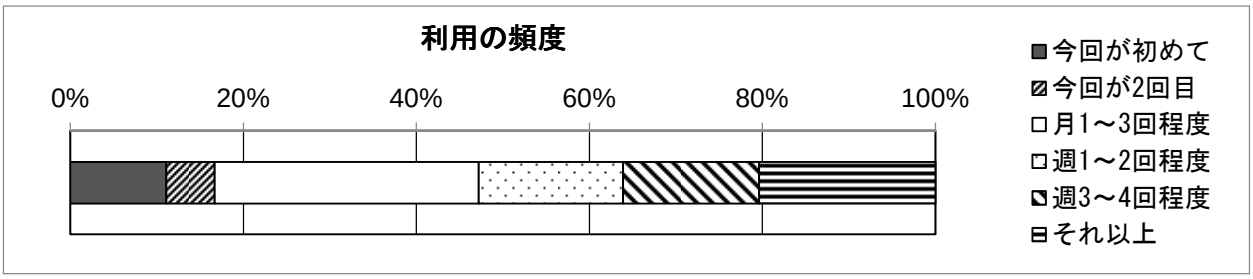
- 調査員が路線バスに乗り込み、利用者全員に調査への協力を依頼し、了解を頂いた方に調査票を用いたヒアリングを実施しました。また、調査期間内にすでに一度調査に答えていただいたかを確認し、同じ人を 2 度調査することがないように配慮しました。
- 調査票は基本的には、説明を読んで答えていただくアンケート票の形式になっており、同時に多数の方が乗車した場合になどでは、ご自身に記入していただく方法も併用しました。
- 9 月末で運行を停止した、笠松循環線、おさかなセンター線については、9 月 14 日～18 日に、またそれ以外については、2 月 18～26 日の間に、茨城東病院線、海浜公園西口線、フローレスタ須和間・南台・緑ヶ丘循環線、フローレスタ須和間・南台・緑ヶ丘～茨城東病院・海浜公園西口線の各線で実施しました。
- 回収票は、109 票となりました。

回答者の属性

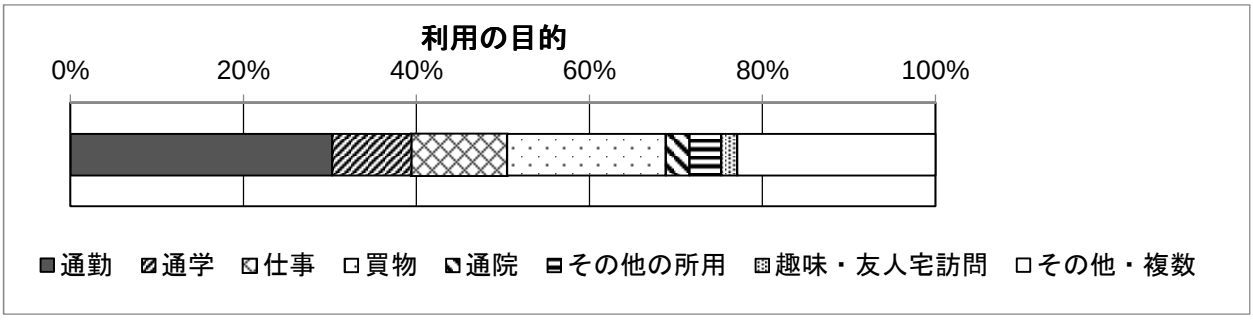
- 年齢では 10 代から 80 代まで幅広い年齢層から回答が得られています
- 性別では、男性 48.6%、女性が 51.4%と,ほぼ同数となりました。
- 全体の 60%が運転免許を保有しており、また全体の 46.2%が自分で運転をする人です。「自由に使える車」があると答えた人は 66.7%になっており、住民を対象とした無作為抽出のアンケートの結果に比べ、運転できない人、家族の送迎もできない人が多く含まれる結果になりました。
- デマンドタクシー「あいのりくん」は、回答者の 19.3%が利用経験ありとの回答でした。

利用の状況（問 C）

- 利用頻度は、約半数が週 1 回以上であり、定期的に利用している人が相当数いることがわかりました。

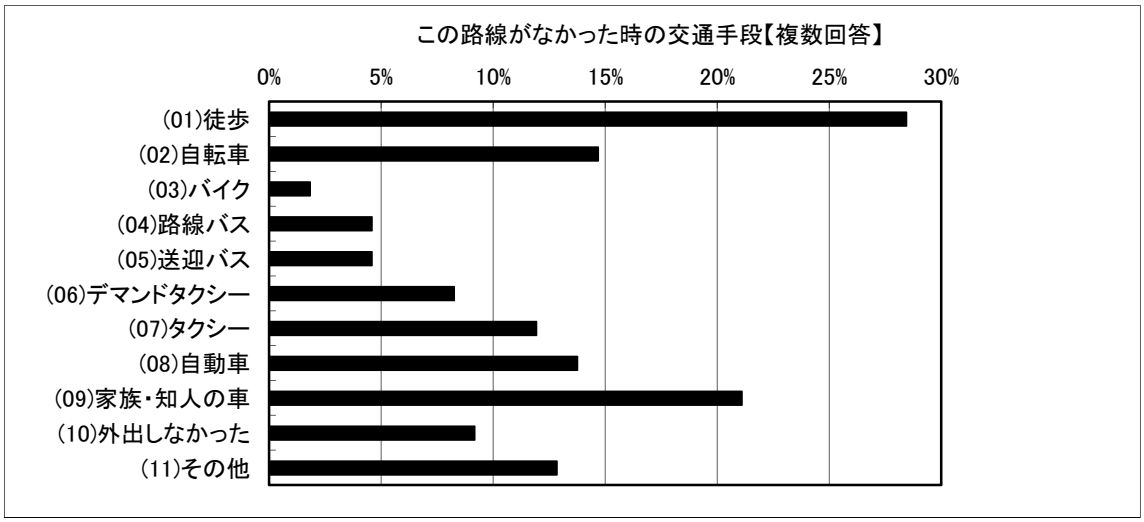


・ 利用目的では、通勤、通学、仕事の合計で約半分を占めており、買物は約 2 割です。

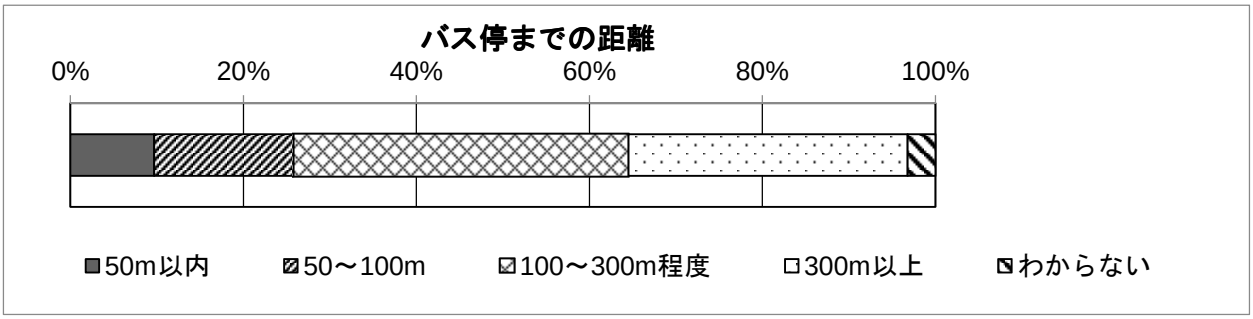


・ 路線バスがなかったときの交通手段について一つの図に示したものが下図です。

・ 住民アンケートとほぼ同様の結果ですが、タクシーやマイカーや家族・知人の車、またバスを使う目的地への外出はなかったとするものが、比較的多く見られます。

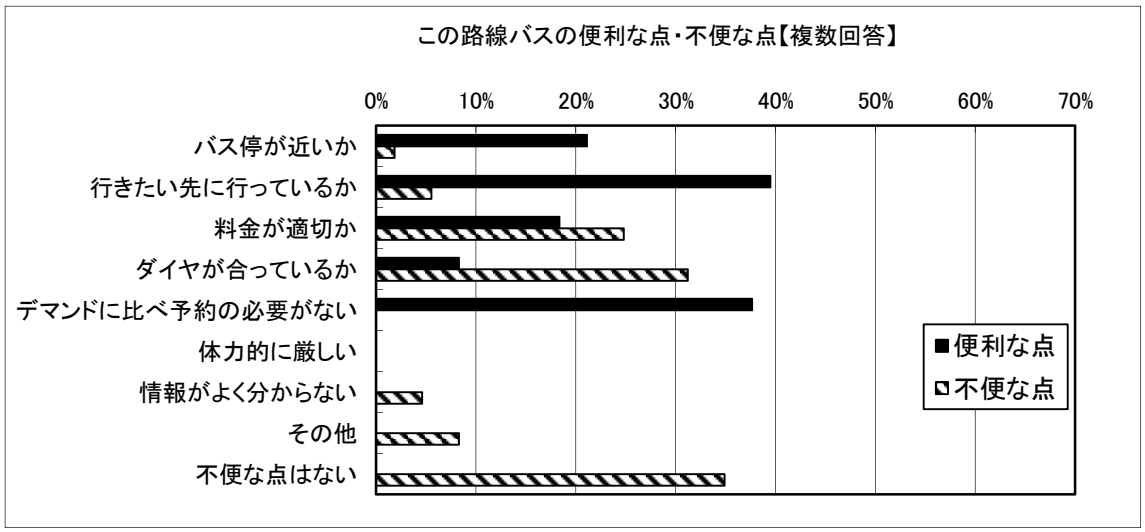


・ 自宅から最寄りバス停までの距離を聞いた結果では、約 6 割が 300m 以内でしたが、300m を超える人も 4 割程度存在していることがわかります。

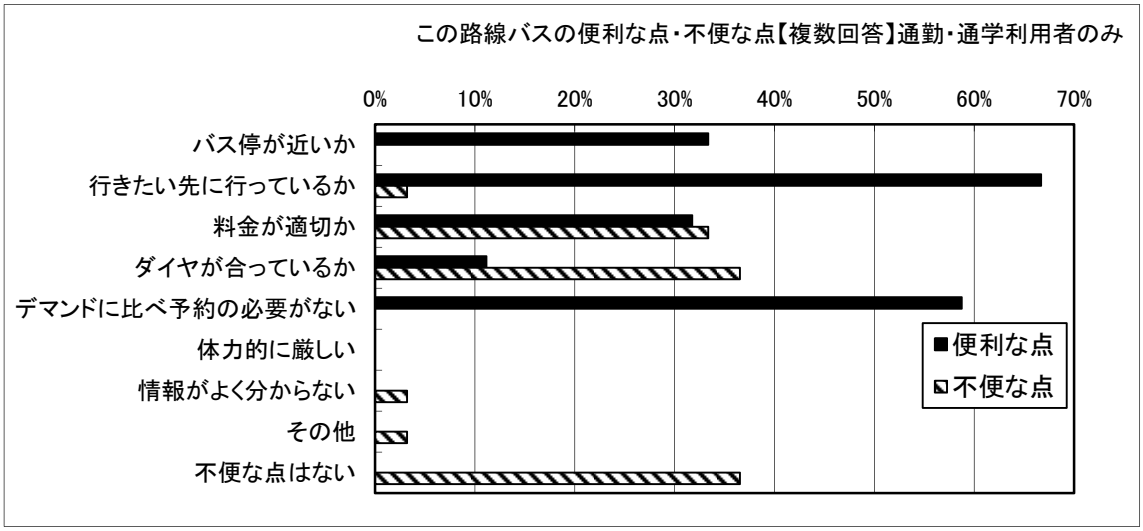


路線バス運行のサービス水準の評価（問 C）

- 住民アンケートと同様の質問・選択肢で評価してもらいました。
- 住民アンケートでは、全員に聞いた結果に比べて、利用があると答えた人はバス停が近い、行きたい先に行っているという、便利な点の回答が目立っていました。乗り込み調査の結果では、さらにこの傾向が強くなっており、これらの条件の良い人が利用している傾向が明らかであると言えます。
- また住民アンケートと同様、「ダイヤ」が不便な点の指摘として目立ちます。さらなる工夫が求められていると言えます。



- 比較的利用頻度が高い、通勤・通学目的の利用者に絞って集計した結果が下の図です。さらに、バス停に近い、行きたい先に行っている、の評価が高く、条件が良い人が利用している傾向がより明確です。
- 先と同様に、ダイヤが不便だとする意見が多い結果となりました。


この路線バスの便利な点・不便な点【複数回答】通勤・通学利用者のみ
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
バス停が近いか
行きたい先に行っているか
料金が適切か
ダイヤが合っているか
デマンドに比べ予約の必要がない
体力的に厳しい
情報がよく分からない
その他
不便な点はない
便利な点
不便な点